



交流の輪ひろげよう

Ring

Ring

りんぐりんぐ

第66号
VOL.66

八戸国際交流協会
Hachinohe International Relations Association

2021年1月発行
Published January 2021

英語で種差をガイドしよう



令和2年10月3日(土)

ボランティア英語ガイドのメンバーが、種差の魅力外国人にも伝えたいとの思いから、「種差トレイル英語ガイド試行研修」を実施しました。

当日は、市内のALT 7名が参加し、葦毛崎展望台から種差海岸までを、約2時間かけて歩きました。終始、会話が弾んで、とても楽しいトレイルとなりました。

今回、実際に案内をしてみて気付いた改善点を踏まえ、コースやガイド内容を更にバージョンアップさせ、コロナ禍が落ち着いたその時には、たくさんの外国人のみなさんを案内できるといいですね！

交流するともっと
わかる世界のこと。

Index

P2………… 地域で育む BOSAI 力講座

P3………… 写真でハッピーハロウィンコンテスト

P4～5 … 外国にルーツをもつ子供たち～母国文化の理解～

P6～7 … JICA 隊員現地レポート

P8～9 …… 国際交流員のコーナー

P10 …… 世界で活躍する八戸ゆかりの人

P11 …… HIRAからのお知らせ

P12 …… 外国人住民用「ほっとスルメール」

会員数

個人

145

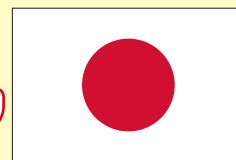
団体

56

(令和3年1月現在)



地域で育むBOSAI力講座 “あなたなら、どう伝える?”



2020年10月18日(日)、日本人と外国人が一緒に災害について学ぶ「地域で育むBOSAI力講座」を開催しました。カナダ出身のマイケル・モリス編集員が取材しました。

上長地区住民と(株)東京ドレス八戸モードのフィリピン人実習生が、共に災害時の行動について学ぶ防災教室が、上長公民館で開催されました。言語の異なる外国人と地域住民が、災害などの緊急時におけるコミュニケーションについて考え、体験しました。

最初に、フィリピン人実習生は、八戸市防災危機管理課の職員から災害時の避難ルート、一番近い避難所、必要な情報の入手方法などについて説明を受けました。一方、地域住民は、岩手大学国際教育センターの松岡洋子教授から、外国人が避難所に避難してくるとの想定で、「やさしい日本語」でどのように情報交換をすればよいかの指導を受けました。

後半は、やさしい日本語を使った避難所でのコミュニケーションを想定し、ロールプレイを行いました。フィリピン人が避難所に避難してきた外国人役、地域住民が避難所のリーダーや、受付等のスタッフ役です。実習生は自分の知りたい、あるいは知ってもらいたい事を何とか伝えようと奮闘し、地域住民は避難所でのルールなど、知っておかなければならない事項について、やさしい日本語を使っの説明にチャレンジしました。冒頭から、お互いのコミュニケーションが非常に難しいことを痛感しながらも、非常にゆっくりとした「やさしい日本語」とジェスチャーを駆使して、意思疎通を試みました。

今回のロールプレイを通して、基本的な健康状態等の情報交換さえ難しいことがわかりました。イラストカードを活用するなど、言語がわからなくても必要な情報を伝え合える工夫が必要かもしれません。



フィリピン人向け講義



ロールプレイの様子

今回の講座は、日本人にとっては、災害時に外国人をどのようにサポートすれば良いかを、外国人にとっては、災害時に自分の身を守るために何ができるか、しなければならないかを考える良い機会となりました。

普段から交流する機会をつくって、お互いに顔や名前を覚えるところから始めていけたら良いですね。そして、いざという時には、国籍問わず皆で助け合えるコミュニティでありたいものです。

HAPPY賞



ゆうちゃんママ

疫病も退散
するで賞



3匹の子ブタ母ちゃん

ゴージャスで賞



かつぼん

魔女っ子で賞



魔女っ子エレサ

なりきっている
で賞



鬼滅に夢中!!

蝶が決まってる
で賞



さきねえね

着ぐるみが
似合っている
で賞



うめこ

カーネルおじさんも
びっくりするで賞



みれい8りた

写真で ハッピーハロウィン コンテスト

入賞作品決定!

令和2年9月18日～11月8日にかけて募集した「写真でハッピーハロウィンコンテスト」の入賞作品が決定しました。応募総数86枚の中から、外国人ボランティアとコンテスト実行委員の審査により、ステキな仮装でとってもかわいい10作品が選ばれました。

新型コロナウイルスの影響により、当協会のハロウィンイベントとして初の試みとなりましたが、各ご家庭で楽しんでいたようで良かったです。たくさんのご応募ありがとうございました!

みんなを
助けるで賞



みおちゃん、りくとくん

さあお祈りしま
賞



みお・ののか

特集！

外国にルーツをもつ子供たち ～母国文化の理解～

前号では、外国にルーツをもつ子供たちの日本語習得にスポットを当てて取材をしました。

今号では、そういった子供たちが「母国の言語や文化、風習などをどのように学び、理解しているのか」について、4名の方にインタビューをしました。

🌐 フィリピン出身 Aさんの場合 🇵🇭

私は、日本で勉強したいとの思いから、生まれたばかりの最初の子どもをフィリピンの実家に預け、日本にきました。日本での生活が安定してから、子どもと共に日本で暮らすようになりました。母親としては、自分の生まれ育った国のことを知ってもらいたいと思っています。

母国語に関しては、最初の子どもはフィリピンで過ごしていたので、八戸に住んでからも家庭内ではタガログ語で話しています。下の子は、3歳までフィリピンのインターナショナルスクールに通い、英語を話していました。今は主に日本語で会話していますが、英語も教えています。下の子とフィリピンに帰ったときは、フィリピン人の従兄弟と話したくて、「ママ、これはタガログ語で何と言うの?」と聞いてきては、自分から会話しようとしていました。「ママ、僕は何人?」と聞いてきたり、嫌なことがあれば「フィリピンに帰りたい」と言う時もあります。

フィリピンはカトリックの国なので、宗教に関することは教えますし、毎週教会にも行きます。週に3回は必ずフィリピン料理を作ります。子ども達は、「懐かしい味だ!お母さんのフィリピン料理は美味しい!」と言ってくれます。

🌐 中国出身 Bさんの場合 🇨🇳

子どもには中国のことを知ってもらいたいと思い、最初は中国語で話しかけていました。しかし、全く反応が無く、日本語で話しかけるようにしました。子どもが3歳の時に中国に移り、3年間学校に通うと、徐々に日本語を忘れ、中国語を話すようになりました。中国料理にはなかなか慣れませんでした。今は食べています。家庭でも中国料理は定期的に作ります。

お父さんとは日本語で話していますが、将来私たちがどこに住むかは決まっていません。でも、どこへいったとしても生活できるように、語学を覚えてもらいたいと思っています。また、中国人の考え方も知ってもらいたいです。例えば、中国では親孝行を第一に考えるのですが、日本ではそうでもないの、子どもは、「なぜ親孝行をしなければならないの?」と聞いてきます。

子どもは、「自分は日本人だ」と思っています。でも、中国でも日本でも、「あなたはどこの国の人?」と聞かれることがよくあり、「なんと答えればいいのか」と迷ったことはあるようです。

🌐 元国際交流員 アンジェリカ・ワンさんの場合 🇺🇸

八戸市役所で国際交流員として約2年間勤務していたアンジェリカ・ワンさんは、中国系アメリカ人として、2つの異なる文化の中で育ちました。前号〈移民二世の中国系アメリカ人として育って〉の記事の中で、「自分のアイデンティティについて深く悩んだ時期があった。そんな時、心に響いたアドバイスは、『人生はあなたのいる環境によって決まるものではなく、その状況に対してあなたがどう行動するかによって決まる』という言葉だった」と話しています。

大人になった今は、「両方の世界を経験できたことは、むしろ恵まれているのだ」とポジティブに捉えられているそうです。「おそらく一番重要なのは、本当の自分を思い出させてくれる、信頼できる家族や友人がいることだと思う」と明るく語っていました。

🌐 川崎編集長の場合 🇺🇸

アメリカで生まれた自分の孫娘は、英語社会で2歳まで育った後、一時帰国して、2年間八戸で過ごしました。来年3月にはアメリカに戻り、再び英語社会で成長していくことになります。このことがきっかけで、韓国人と日本人の両親のもと、両親の母国語とは異なる国で成長する孫娘が直面するであろう状況に関心を持っていました。

いわゆる「ハーフ」と言われる子どもたちは、成長に伴って、必ず自分のアイデンティティに疑問を持つ時期があると言われています。「自分の孫娘にもその時期がくるだろう」「その時、私が元気だったら、どのようにアドバイスをすれば良いだろう」と、先走って考える今日この頃です。

「我が孫娘よ、大いに悩みなさい。日本のじいちゃんは見ているから!」

👁️ 編集長's "Eye"

台湾出身の温又柔（おん ゆうじゅう）さんは、著書「台湾生まれ 日本語育ち」の中で、「あなたの母語はなんですか？と幾度も聞かれて苦痛だった。その答えとして『台湾語とチュウゴク語の織り交ざったこのニホン語です』と答えるようになった」と語っています。温さんは、小さい時に台北から日本へやって来ました。日本社会で成長していく過程で、日本語、台湾の中国語、そして大陸の中国語を使う両親や、台湾の親戚との関係から、自分のアイデンティティに疑問を持ち、克服する過程を書いています。

また、日本経済新聞（2020年2月3日付）に、外国籍の子どもが在学する小学校の校長先生が書いた記事が載っていました。「校長として赴任する前は、母国文化に触れることよりも、日本語や日本の生活様式を知ることが優先すべきではないかと考えていた。これが大きな間違いだった。母国語を大切にし、自分が何者であるかをしっかり自覚することが最優先されなければならない。」と語っています。すなわち、外国籍の子どもたちが、しっかりと『アイデンティティ』を持てるような取組みが必要だと考えているようです。さらに、「彼らが生きていく社会にも馴染まなければならない。それが日本であるならば、日本と母国両国にまたがった『自分である証』が必要になる。」と結んでいます。

今回取材したご家族だけでなく、外国から日本へ来て、日本の社会の中で生活している家庭においては、両親が「自分たちの母国のことを知ってもらいたい」と願う気持ちは同じなのでしょう。そして、母国以外の社会で成長していく子どもに対して、母国のことを伝えるというのも、お父さんとお母さんの大切な役割なのかもしれません。



JICA海外協力隊員の現地レポート

八戸市出身 さんのへ あさひ 三戸朝陽さん



エクアドルにおいて2017年から2年間、JICA海外協力隊(平成29年度第1次隊)として、環境教育に携わった三戸朝陽さんをご紹介します。

南米エクアドルの環境問題と向き合って



エクアドルってどこ?という疑問から私の活動は始まりました。当時は言葉も文化も全く分かりませんでしたが、自分のスキルを活かしながら異文化を学びたいと思い、2年間の活動を決意しました。エクアドルは、ガラパゴス諸島やアマゾンなどの豊かな自然、生態系を有する南米の小国です。私はアンデス山脈内の地方都市の市役所で、環境教育のボランティアとして2017年7月から2年間活動しました。

エクアドルには環境問題について学ぶ機会はなく、子どもはもちろん大人も知識がありませんでした。ゴミはポイ捨て、環境問題は遠い世界の問題として捉えられていました。しかし実際に環境問題は深刻で、ゴミの処理が追いついておらず、環境教育を学校でおこなうよう政府が方針を変えました。そんな中で私は、学校や学童保育での授業をしました。ゴミをポイ捨てせずゴミ箱に捨てることから、ゴミの分別方法やリサイクル、動植物の保護、防災などの多様な環境問題について、1日1テーマ、ゲームや歌、ビデオなどを交えて授業をしました。エクアドルでは行われな道德の授業や、日本の文化紹介なども人気でした(エクアドルでも日本のアニメは大人気です)。子どもたちは外国人である私が珍しく、いつもハグをして迎えてくれました。



川沿いの清掃

こうした活動を市のテレビで紹介したところ、環境に関するテレビ番組を制作することになりました。同時期に活動していたドイツ人ボランティアや、環境分野について学んでいる現地の大学生と協力し、3人が出演する環境をテーマにしたテレビ番組を制作しました。より多くの人に見てもらえるようになり、環境を守ることの大切さを訴える機会として効果的でした。FacebookやYouTubeといったSNSでも拡散し、多くの市民が見ることができるようになりました。

多数の固有の生態系を持つガラパゴス諸島は日本でも有名ですが、これまで人間の乱獲やゴミによる海洋汚染などによって何度も環境を破壊されてきました。絶滅した種も多くあります。現在はプラスチックのレジ袋を使わない、生物に近づいてはいけないといった、様々な環境保護のための規則があり、それによって環境が守られています。



教え子との集合写真

協力隊としての活動は、こちらから与えるものだけではなく、現地民から学ぶこともまた、大きな国際交流の成果だと思います。彼らは昔ながらの生活を守り、自然と共生しています。しかし安くて便利なプラスチック、移動に便利な交通機関の排気ガスなど、昔はなかったものが自然環境を破壊しています。エクアドルの環境問題を一から学び、共に解決方法を考えられたことは貴重な経験でした。

私の2年間の活動によって、授業する教室はゴミ一つ落ちていない綺麗な教室になりましたが、住んでいた街の環境問題が改善されたわけではありません。環境問題は、時間をかけて多くの人々の意識を変え、行動を

変え、解決していかなければならないのです。現地の同僚が根気強く環境教育を継続し、子どもたちが将来も豊かな自然と共生し、守っていくことを願っています。

私はエクアドルに行く前から国際交流が好きでよく海外に行っていましたが、今は新型コロナウイルスの流行もあり地元の八戸にいます。家族と暮らすことは当たり前のようですが、毎日一緒にいられることに幸せを感じています。八戸の海産物を毎日食べられることも、以前は気づかなかった私の幸せのひとつです。エクアドルも新型コロナウイルスの影響を受け、友人やホームステイ先の家族は大変な生活を送っています。また彼らに会えるのを楽しみに、今はお互い健康でいることを約束しています。



エクアドルのお母さん

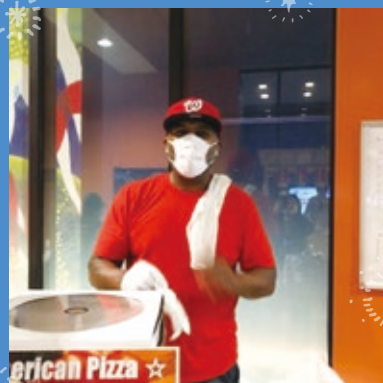
JICA東北より

青年海外協力隊事業は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、現在派遣・募集とも中止しています(応募に関するご相談は常時受けておりますが、実際再開の目途はまだ立っておりません)

国際交流インフォメーション

六日町の夜がグローバルに！

10月11日(日)、六日町商店街振興組合主催の「さかな町夜の歩行者天国」が開催されました。町内の通りにはインターナショナルフードブースが設けられ、メキシカンライス&チキンや、アメリカンピザ、インドの紅茶などを提供しました。アメリカやフィリピンの方々が販売に参加してくれ、来店者と日本語や英語でのコミュニケーションを楽しんでいました。国際交流の観点からも、大変賑わった楽しい夜となりました。





国際交流員(CIR) アンジェリカのコーナー!

年末年始の
過ごし方

LAST!

& 退任の
あいさつ

It's almost hard to believe that it has been almost a whole year since the global pandemic first started and continues to affect the lives of millions around the world. Out of all the many hardships that have arisen, one mundane yet very constant stressor is surely the fact that we can no longer freely be with the people that we love the most. I think everyone can relate that it's especially during the holiday seasons when we look forward to gathering with our family and friends, which is something that many of us haven't been able to do in a year.

新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界中で数億人の生活に影響が出始めてから、もうすぐ1年になるなんて、信じられないですね。様々な困難の中で、日常的に最もストレスを感じるのは、会いたい人と自由に会えないことでしょう。特に、お正月などの特別な時期に、家族や友達と会うことを楽しみにしていたのに、今年は会えなかった…という人が多いのではと思います。

As someone living in a foreign country, the holidays have always been filled with longing for the comfort of being home. In America, things usually start getting festive from Halloween until the New Year. The last three months of the year always feel so busy and pass by in the blink of an eye, but since living in Japan, even though I see some people or businesses celebrate Halloween and Christmas, for example, it definitely doesn't look or feel the same. To give you an idea of what the holiday seasons feel like for me back home, there's always a lot of good food, pretty decorations, fun activities, and lots of vacation days. We get two days off for Thanksgiving, usually Thursday and Friday, making it a 4 day weekend. As for Christmas and New Years, we normally get around December 23rd until January 2nd off, or more if you're in school.

母国を離れ外国に住んでいる人は、ホリデーシーズンになると実家が恋しくなると思います。アメリカでは、10月末のハロウィンからお正月にかけて、ずっとお祭り気分になります。毎年、年末の3ヶ月間はとても慌ただしく、あっという間に過ぎてしまいます。日本に来てからも、周りの日本人やお店が、クリスマスやハロウィンをお祝いしているのを見かけますが、やっぱりなんか違うなぁと感じてしまいます。アメリカで過ごすホリデーといえば、美味しいものをいっぱい食べたり、きれいな飾り付けをしたり、楽しいアクティビティをしたりと、長いお休みをたっぷり満喫します。感謝祭の時期は、たいてい木・金曜日がお休みなので4連休ですし、クリスマスからお正月にかけては、10日間以上休みます。学生だったら、もっと長いお休みがあります。

Since I grew up in a Chinese family, our Thanksgivings would include some American foods, like turkey, and a lot of special Chinese foods like steamed fish and hotpot. For decorations, I used to put up the Christmas tree with my family, and we would spend a day or two hanging up decorations, listening to music and chatting. At night, we would drive by other neighborhoods and stop to look at their Christmas lights! Some people have really beautiful decorations that cover the entire front yard of their house and they will let you walk around to admire it. Other events that are probably very specific to my family include playing ping pong, playing mahjong or other card games, and working on puzzles that have 1000 pieces (it takes days but it's so addicting). We don't do anything extremely crazy or different, but it's special because we only do those things when we are together as a family.



母とクリスマスツリーの飾り付け

私は中国系の家庭で育ったので、感謝祭には、アメリカンスタイルのターキー(七面鳥)に加えて、蒸し魚や火鍋など中国のごちそうも一緒に食べます。そして、家族と一緒に1~2日かけてクリスマスツリーを飾り付けながら、クリスマスソングを聞いたり、おしゃべりをしたりします。夜になったら、近所の家にクリスマスのライトアップを見に行きます。毎年、気合を入れて、家や庭全体を飾り付けしている人もいて、庭を自由に散歩させてくれるので、綺麗なライトアップを楽しむことができます。

それから、これは私の家族だけかもしれませんが、みんなで麻雀や卓球、カードゲーム、1000ピースのジグソーパズルを楽しみます(数日かかりますが、すごく夢中になります!)決して特別なことではないけれど、家族みんなが一緒にいる時にしかできないことなので、私たちにとってはスペシャルな時間です。



家族と一緒にジグソーパズル

This year is the first time I remember making a small Thanksgiving dinner just to enjoy myself.

I also helped put up Christmas lights at my workplace, and it was work but I was so happy. Holidays will never feel the same without certain people in a certain place, but I think it's important to remember the little things that make us feel closer to home. I hope that we can all take the time to slow down and find fulfillment in our daily lives. Here's to a brand new year and to wishing that every year is better than the last!

今年は初めて、感謝祭のディナーを自分で作ってみました。職場でも、クリスマスイルミネーションの装飾を手伝いました。仕事ではありましたが、とても楽しかったです。ホリデーは、やはり故郷で、大切な家族や友人と過ごさないと、全く同じ気持ちにはなれませんが、たとえ離れていても、ちょっとしたことで、故郷や家族を身近に感じることができるのだと思いました。

みなさんも、今は自分のためにゆっくりする時間を作って、日常生活を楽しんでくださいね。新しい1年が、良い年になりますように!

I finished my job as the CIR of Hachinohe City this past September, and now I'm working at a local company in the area. I had the wonderful honor of working as the CIR for the past 2 years, through which I met so many great people and learned so much about this city. Some of my favorite memories include the many Hachinohe International Relations Association events that I was able to help out with, especially the annual Festa. There are so many foreigners from non-English speaking countries living and working in Hachinohe, and it was such a unique and unexpected experience to make so many international friends. I also loved the Miniboat Program, in partnership with the Columbia River Maritime Museum from my home state of Oregon, USA. Hachinohe is so lucky to have close relationships with other cities and people around the world, and I hope to see the friendships grow even more in the future.

昨年の9月、国際交流員(CIR)としての任期を終え、現在は八戸市内にある民間の会社で働いています。CIRとして働いた約2年間、たくさんの素晴らしい人たちと出会い、八戸についても多くを学ぶことができました。国際交流フェスタをはじめ、八戸国際交流協会のイベントでは、英語圏以外の在住外国人のみなさんとも出会い、友達になることができました。また、出身地であるオレゴン州のコロンビア川海事博物館と実施している「ミニボートプログラム」に関わることで、とても嬉しかったです。世界と親密な繋がりのある八戸は、本当に恵まれていると思います。これからもっと、その繋がりが強くなればと願っています。

Lastly, I was inspired by the hardworking volunteers of the Hachinohe International Relations Association, who strive to improve their own abilities, whether its through English language learning, making a safe and fun community for resident foreigners, or creating written content to spread the awareness of the international cultures and communities in the area. The warm-hearted people I have met during my time as CIR are truly the biggest blessings. I think Hachinohe is a lovely place with so much potential, and I'm looking forward to living here in the coming years.

そして、一生懸命に活動する協会ボランティアのみなさんにも刺激を受けました。皆さんが、それぞれの能力を活かして、またそれらを向上させるために、常に努力している姿を見て、感動しました。英語の勉強、在住外国人の支援、国際交流や異文化に関する情報発信など、色々な形で頑張っています。

CIRの仕事を通して、優しい人達と出会えたことが、私にとって一番の財産です。八戸は、これからもっと魅力的な場所になる可能性を秘めている、素晴らしい場所だと思います。引き続き八戸で生活できることを楽しみにしています。

世界で活躍する八戸ゆかりの人



ここでは、世界で活躍している八戸出身者を紹介しています。

今回は、編集員の岩間さんからのご紹介で、カンボジア・プノンペン在住の佐々木奈津子さんです。



アンコールワットをバックに



海外への関心

子供の頃から外国人と関わりたいと漠然と思っており、中学生の夏休みに三沢米軍基地へのホームステイへ参加し、異国の文化を体感してから、いつかは外国へ住みたいと感じるようになりました。好きな科目といえば英語でしたが、海外へ関わる機会がないまま大学へ進学。在学時に「あいのり」という海外で貧乏旅行をする番組に参加し、UAEで普通の旅行では接する機会のない現地の生活に触れ、もっと多くの国の文化を知りたいと感じました。

大学卒業後は青森銀行へ就職、いつか海外へ移住する目標を掲げ、長期休暇を利用し年2、3回主にアジアへの一人旅を続けました。どこの国へ行ってもたいていは英語が通じるため、現地の人と積極的に関わるようにし、話す英語を習得しました。銀行員生活10年を過ぎた頃、それまでの経験を生かせる国として、移住先をカンボジアと決め、34歳の時に首都プノンペンに移住し3年半が経ちます。



仕事とマラソンの両立

カンボジアに移住後すぐに、これまでの金融機関業務経験を買われ、日本のSBIホールディングスのグループ会社、SBIロイヤル証券に勤務。採用早々、日本でいう証券外務員のカンボジア国家資格を2週間で取らなければならず、内容は日本と大きく変わりませんが、英語での金融専門用語を調べるところから必死で勉強しました。業務はジャパンデスクで、社長は日本人ですが、同僚はカンボジア人とアメリカ人。すべて英語での会話です。来客も多国籍であり、これまで旅で使ってきたアジア英語のほかに、ネイティブ英語に触れる機会も増え、英語での会話を学ぶ日々です。ちなみにカンボジアの言語はクメール語ですが、そちらはなかなか上達していません…



SBIロイヤル証券社員旅行(前列左から3番目が私です)

仕事の傍ら、小学生から続けているマラソンにも力を入れており、カンボジア国内外のマラソン大会に出場。カンボジア在住の女子では、イギリス人・フランス人と並び国内トップ3をキープしています。



これまでとこれから

カンボジアに移住して得たことは、グローバルな出会いです。発展途上国の首都となると規模が大きい分、小さな街に一国の経済が凝縮されています。カンボジア人はもちろん、多種多様な国の方と、また日本人でも地元にはなかなか出会う機会のない方々と繋がることができ、自分がどれだけ固定概念を持っていたのかと感ずることがあります。様々な文化や考え方を受け入れ、以前に比べ私の考え方も柔軟になりました。海外移住を目標にしてから実現するまでに時間が掛かりましたが、日本で銀行員やマラソンを続けていたことが、現在のカンボジアでのキャリアにつながっているため、自身の基盤作りのために必要な時間であったと今になって思います。目標は諦めなければいつか実現するものと信じています。

昨年、カンボジアで出会った日本人と結婚。4月には地元への里帰り出産で、第一子が誕生しました。今後は仕事をしながらの子育て、ママさんランナーとなりますが、新しいことへのチャレンジといった気持ちで、新たなカンボジアでの生活に心を躍らせています。



HIRAからのお知らせ

がいこくじん

にほんごきょうしつ

外国人のための日本語教室

NPO法人みちのく国際日本語教育センター(MIJEC)が実施している外国人のための日本語教室は、今年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで行っています。教室に集まって授業をしていた時のように、受講者の日本語レベル別にクラスを分けてZoomをつないでいます。Zoomの画面共有機能でパワーポイントを表示したり、チャット機能で例文を送信したり、工夫しながら授業を進めています。

講師の1人は、「受講者のレスポンスを大事に授業しているので、オンラインにあわせた授業内容や教え方になるよう努めている」と話していました。

はちのへこくさいこうりゅうかい ほうじん こくさいにほんごきょういく
 八戸国際交流協会では、NPO法人みちのく国際日本語教育
 センターに委託して、外国人のための日本語講座を開講し
 ています。会話を楽しみながら、日本語を学びましょう。今
 年度はオンラインで行っています。

にっ たい れいわ ねん がつ にち れいわ ねん がつ にち まいしゅうが すい
日 程 令和2年8月25日～令和3年3月10日の毎週火・水
 曜日

じ かん ごご じ ふん ごご じ ふん
時 間 午後6時30分～午後8時30分

たい しょう はちのへしけんこうざいじゅう がいこくじん べつ わ
対 象 八戸市近郊在住の外国人(レベル別のクラスに分か
 れます)

じゅうりょう じ き こと と あ
受講料 時期により異なるのでお問い合わせください。



オンライン日本語教室を受講する外国人

【お問い合わせ】

NPO法人 みちのく国際日本語教育センター
 080-6051-3109 / 080-6026-3109
michinokunihongo@gmail.com

八戸国際交流協会 会員及び準会員募集！

八戸国際交流協会の会員及び準会員※を募集しています。当協会は、地域の国際交流や、多文化共生社会の推進を目的として活動しており、会員の皆様の会費によって運営されている団体です。

年 会 費 個人1口 2,000円 団体1口 10,000円

会員の特典

- 協会発行機関紙「りんぐりんぐ」をお届けします。
- 協会主催国際交流イベント情報をいち早くお届けします。
- 協会主催のイベントや外国語講座では会員割引等の特典があります。

※準会員は高校生を対象とした会員制度で、年会費はありません。

八戸国際交流協会ボランティア募集！

当協会は、国際交流活動に参加していただけるボランティアを募集しています。ボランティアとして登録できる方は、**18歳以上**で、次に掲げる条件を満たす方です。

条 件

- 1)八戸圏域内で活動できる方
- 2)国際交流に対する理解及び熱意がある方

活動内容 通訳、翻訳、ホームステイ・ホームビジット受入、ツアーガイド、国際交流イベントの企画・従事など



子育て支援センター「スマイルガーデン」



カメイ歯科

八戸市六日町23(コンサートホールとなり)
 TEL 0178-22-0707

診療時間 平日(月火水金) 10:00～14:00 15:00～19:00
 木曜土曜 10:00～14:00

・六日町パーキング券 を差し上げております。
 ・共通駐車券



日本の伝統を科学するひのきの家
サイエンスホーム
 青森県青森市 18-205 181700号

はちのへし 八戸市からのお知らせ がいこくじん 外国人のための「ほっとスルメール」

Disaster Prevention Information Email in English and Easy Japanese



「ほっとスルメール」とは、安全・安心に関係することについて、けいたい電話やパソコンのEメールに英語・やさしい日本語(※)でれんらくするものです。

※やさしい日本語とは、ふつうの日本語よりかんたんでわかりやすいことです。

Hotto Suru Email is a service that sends out disaster and safety information to cell-phone and PC email addresses. Services are available in English and Easy Japanese.

***Simple Japanese** : Japanese that is simpler than standard Japanese that is easy for foreign residents to understand.

登録料

お金はかかりません。0円です。

Cost

Registration and information services are free. However, telecommunication fees remain.

れんらくすること

- ①津波のおしらせ 日本語、英語、やさしい日本語でれんらくします。
津波(高い波)がくること、津波(高い波)からの逃げかた
- ②緊急のおしらせ 英語・やさしい日本語のどちらかをえらべます。
台風・地震が起きたこと、逃げるところ
- ③ライフラインのおしらせ 英語・やさしい日本語のどちらかをえらべます。
電気・ガス・水道の事故のこと

Information Sent

- ①Tsunami Information
available in Japanese, Easy Japanese and English
tsunami advisories / warnings, evacuation information
- ②Emergency Information
available in English or Easy Japanese
earthquakes, typhoons, evacuation advisories / warnings, the opening and location of evacuation centers
- ③Lifeline Information
available in English or Easy Japanese
problems with electricity, gas and water

ホームページ

詳しいことは、ホームページを確認してください。

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/bunka_supports/kokusaikoryu/tabunkakyoseisyakai/13949.html

ほっとスルメールホームページ▶



Website

For more details, please check the City of Hachinohe's website:

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/bunka_supports/kokusaikoryu/tabunkakyoseisyakai/13949.html

Hotto Suru Email▶



れんらくさき Contact Information

八戸市 市民連携推進課
国際交流グループ

Citizen Collaboration Promotions Section International Relations Group
〒031-8686 Hachinohe Uchimaru 1-1-1
TEL) 43-9257 FAX) 47-1485 Email) renkei@city.hachinohe.aomori.jp

外国人のお友だちにも
教えてあげてね!



編集後記

当機関紙は、これまで年度内に2回(8月、2月)発行してまいりました。しかし令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により協会事業が計画通り進められていないことから、1回のみ発行となりました。読者の皆様には、ご理解賜りますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染の波が早く終息し、日本人と外国人の交流や、外国人に日本文化を伝えるイベントなどが通常通り開催できることを願っております。そして、より多くの方に国際交流について興味をもっていただけるよう、広報活動に取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

編集スタッフ

編集長：川崎 康一
編集員：亀井 圭子 田頭 順子 松田 朋恵
岩間 未希子 Micheal Morris Joy Pal
吉田オレリー 田中 野 関川 佳子

発行・お申込・お問合わせ：

八戸国際交流協会(八戸市市民連携推進課内)
〒031-8686 八戸市丸1-1-1
TEL 0178-43-9257
FAX 0178-47-1485
E-mail info@hachinohe-hira.jp
http://hachinohe-hira.jp



印刷：新光印刷株式会社

〒031-0813 八戸市新井田字鷹清水9-11
TEL 0178-34-5331 FAX 0178-34-6078